

## 史談の旅阿蘇路

後藤 弘子

晴天に恵まれ、初参加の友達と、雄大な阿蘇の山々の紅葉に、思わず声をあげて感動しました。

阿蘇神社は、創立西暦紀元前二八一年との言い伝えがあるようですが、祭神は全部で一三座、このうち歴史書などに記載されている神々は三座と云うことです。神社は肥後の国の一宮で総鎮守神として崇められ、また伝説では三座の主神健甕龍命が、阿蘇谷の湖水の水を切って美田を拓いたと云われ、神恩によって人々の生活が支えられて来たとのこと。

西巖禅寺は天台宗の寺院で、一千三百年前に創建されたと云われ、元は阿蘇山頂にあり、「阿蘇のお池」と呼ばれ池沼であった噴火口のありようと密接な関係があったとのこと。本堂には鎌倉時代の仏像などが幾体も保存されており、幾度かの受難の歴史を耐えながら、遺産を今日に伝えた坊主関係者のご努力に敬意を表したいと思います。

昼食は食堂「あそ路」で。雑談、笑いあり、たかな飯の定食を頂きました。

午後一時過ぎ、的石茶屋跡に着きましたが、ここは細川綱



利公の創建になり、参勤交代の道中休憩をされた場所です。一千七百九十七年、小糸次衛門が管理を命じられてから現在まで、小糸家が代々その任を引き継ぎ、茶屋の間取りや庭園などは往時のままに保存されています。庭を流れる清水を見一刻の安らぎを覚えました。今もお茶屋を守る小糸家の当

主小糸先生のご長寿をお祈り致します。

次は二重峠。細川公の参勤交代の峠道、殿様は御籠で悠々、家来の苦勞のほどが偲べれます。五日間かけて大分県の鶴崎に着き、船で大阪に渡ったことなど、初めての勉強でした。古の人々の偉大さに敬服致しました。

最後は大観峰、阿蘇谷の眺望が素晴らしく、阿蘇五岳が釈迦の寝姿であり、涅槃像のように見ると云うことです。見渡す限りの大草原はスキが群生し、穂が白くなり始め、冬近しの感を抱かせました。観光客があふれ、お土産品店にも活気がありました。

歴史と文化を紡いで来られた阿蘇の人々との出会いや、先導して下さった渡辺先生、役員の皆さんのお世話で、秋の一日を大変楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。御座いました。

## 阿蘇神社社殿と阿蘇大宮司

阿蘇神社説明書より 研修部

### 阿蘇神社社殿

社殿は度々の天災で焼けましたが、江戸時代末の天保から安政年間にわたる二〇年余の歳月をかけて、現在の社殿が建立されました。白木の総ケヤキ作りで見事な彫刻がほどこされています。

楼門の規模は広壮で神社建築には珍しく、二層の屋根になっています。また両脇門があつて神幸門・還御門といい平常は閉ざしているが、御田植祭の神幸の時のみ使用します。拝殿・翼楼などは昭和二十三年の建築です。

### 阿蘇大宮司

阿蘇大宮司家は御祭神建磐龍命より綿々、累世相次ぎ、現大宮司は九一代目にあたり、皇室に次ぐ旧家として世に知られています。特に中世（鎌倉時代）以降は、肥後の国の大半を領有して皇朝のため尽すいし、御繪旨（天皇の意思を伝える文書の一）、軍忠状などの古文書も数百通保存してあり、足利尊氏の軍勢催促状「もとどりぶん」などの貴重な宝物も宝蔵されています。